

## 環境にこころを学習しよう

家庭や学校、地域などで小・中学生を対象とした環境学習に取り組み、つとめる場合、参考になるのが「ひょうご環境学習プログラム」です。水、生き物、消費生活などをテーマに、自然観察や体験を通して、環境モラルを再認識し、さらに環境に配慮した生活や行動を実践するための多彩なモデルプログラムを紹介。地域特性や学習者の年齢、発達段階により柔軟に選択し、アレンジすることもできます。

# 身近なことから 環境活動

澄んだ空気、清らかな水一。古来、人は動物や植物と自然の恵みを共有してきました。動物や植物が生きていける環境は、本来、人にとっても暮らしやすい豊かなものといえます。環境づくりのスタートは、自らの生活を振り返り、変えていくこと。そして環境について学び、行動を起こすこと。県では、さまざまな施策を通じて、家庭や学校、職場、地域での環境学習や環境保全活動への取り組みを推進しています。

環境モラルを  
チェックしよう!

このプログラムの一層の活用をめざして、今年度は県内五カ所で指導者養成講座が開催されます。その受講者を中心に人材バンク「いきいき環境学習応援団」を設置し、地域で環境学習に取り組む団体や学校に講師として紹介する予定です。さらに調査キットなどの環境学習器材の貸し出しもスタートします。

が得られ、自分たちの興味や関心に合わせて自然観察・調査、リサイクル活動など地域で身近な活動に取り組むことができます。

地球温暖化に焦点を当て、仕組みや防止策を学ぶのが「温暖化STOP親子教室」です。幼稚園児とその保護者、小・中学生などを対象に、地球温暖化防止活動推進員が紙芝居やビデオを用いて分かりやすく解説。こともエコクラブや地域の子ども会などでも申し込むことができます。

三十人以上の団体で県内の環境関連施設を訪れ、体験学習するなら「エコツーリズムバス」を活用しましょう。バス借上げ費の二分の一以内で、最大で日帰りコース五万円、一泊二日コース十萬円の助成があります。

実際に環境活動を始めた、という小・中学生には、「こどもエコクラブ」もお勧めです。



ピオトープでの水生生物調査

も会などでも申し込むことができます。三十人以上の団体で県内の環境関連施設を訪れ、体験学習するなら「エコツーリズムバス」を活用しましょう。バス借上げ費の二分の一以内で、最大で日帰りコース五万円、一泊二日コース十萬円の助成があります。

や近所の友達、兄弟姉妹など仲間を募り、活動を支える身近な

成があります。

### (( ( チェック一覧 )) )

- 【あいさつ・規律・約束】…モラルの出発点は身の回りから
- きちんとあいさつをする。
- 自分のスリッパや靴をそろえる。
- 目上の人に話し掛けるときは、言葉遣いに気を付ける。
- 【パートナーシップ・協力・ボランティア】…一人よりもみんなで
- テレビやステレオ、ピアノの音などが周りの迷惑にならないように気を付ける。
- 家の周囲や近所の公園などの掃除をすすんです。
- 電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人などに席を譲る。
- 【意欲・探求・忍耐力・創意工夫】…達成感からやる気と工夫
- やり始めた事は途中で投げ出さず、最後まで頑張る。
- 友達といる時、自分からアイデアを出して行動する。
- 【心と命の教育・健康・優しさ】…健全な心を養う
- ペットをかわいがり、自分できちんと面倒を見る。
- 安全な食べ物を食べるように心掛ける。
- 【空気や水を大切に】…共有財産は公平に
- 歯磨きや洗顔の時、水を流しっぱなしにしない。
- ジュースや牛乳を飲み残さない。
- 【無駄をなくす・省エネルギー】…日常生活に無駄が多いのでは?
- ご飯は最後の一粒まで残さず食べる。
- 冷蔵庫に物を入れ過ぎず、必要以上にドアを開け閉めしない。
- 使っていない照明、見ていないテレビはこまめに消す。
- 【ごみを減らす・リサイクル】…人の心も物も大切に
- 買い物には買い物袋やかごを持参する。
- 物は修理してできるだけ長く使う。





## 自然を舞台に博物館づくり

エコミュージアムは、地域全体を博物館に見立て、美しい自然景観をはじめ伝統文化や地場産業人の暮らしなど有形無形の地域資源をみんなで保存・復元し活用していく地域づくりの舞台です。県内第一号は「北はりま田園空間博物館」。平成十四年九月、西脇市と多可郡四町にオープンしました。

鳥取との県境、自然豊かな温泉町の扇ノ山山ろくに平成十七年度のオープンを予定しているのが「上山高原エコミュージアム」です。イスワシ、ツキノワグマなどの多様な生態系を、くんできたブナの森やスキの草原、自然と共生したふもとの



上山高原では、住民らによる自然復元作業が行われている

今後さらに、水辺空間を核とした「いなみ野ため池ミュージアム」（稲美町など）、森を舞台に自然と親しむ「エコキャンパス、しそりの森（仮称）」（山崎町）、県鳥コウノトリとの共生をめざす「コウノトリ翔る地域まるごと博物館（仮称）」（豊岡市）などの整備が計画されており、住民らの参加により地域づくりが進められます。



まずは、あいさつから心掛けよう！

ひょうご環境学習プログラム  
作成検討会議 会長  
甲南大学文学部教授  
谷口文章さんに  
聞きました

環境モラルは日常生活で主体的に身に付けていくものです

環境保全や環境創造への関心は高まっていますが、その意識を実践活動に結び付けるには、まず家庭や学校、地域社会が「環境を大切にす行動規範」を共通の価値観として確立しなければなりません。行動規範とは、具体的には「おはよう」「さようなら」などのあいさつや生命を尊ぶ心といった日常の「環境モラル」から出発します。つまり、環境モラルは日常生活における公衆道徳のことで、言い換えれば人が心地良く生活するための社会的な約束事なのです。

例えば、自分のスリッパや靴をそろえること。これが習慣としてできるようになれば、次には他人の靴やスリッパが散乱しているのが気になり始め、やがてそれを並べてあげようという心が生まれてきます。ペットをかわいがり、自分で面倒をみるというのは、生まれて間もない愛らしい時期から老いて死んでいくまでの一生を見ることであり、環境とは切り離せない関係にある「命」と向き合うことです。命の尊さを学ぶことは、また自らが生きていく上での物差しにもなると思います。これらモラルの根底に共通するものは、他者や動植物、環境を思いやる心です。

環境モラルは強制されるものではなく、日常のライフスタイルの中で人と接したり、動植物とふれあったり、自然の中で体を動かしたりという体験を通じて、驚きや感動、失敗や落胆などを伴いながら主体的に身に付けていくものだといえます。自らの生活を見直し、環境モラルを持つ人が一人でも増えていくことが、パートナーシップによる環境問題への取り組みの最初の一歩となるのではないでしょうか。

### ((( 問い合わせ先一覧 )))

- ① ④ 県環境政策課…………… ☎078 (362) 3156
- ② (財) ひょうご環境創造協会…………… ☎078 (735) 2738
- ③ 兵庫県地球温暖化防止活動推進センター…………… ☎078 (371) 7710
- ⑤ 北はりま田園空間博物館…………… ☎0795 (25) 2370
- ⑥ 県自然環境保全課…………… ☎078 (362) 9084

## 県産木材の利用で森を育てる ひょうごの木造・木質化作戦

戦後、外国産木材の輸入が増えたのに伴い、県産木材の利用が減少し、森林の荒廃につながっています。そこで県では、県産木材の利用を促進することで森林の新陳代謝を促し、森を健全に育成しようと「ひょうごの木造・木質化作戦」を展開しています。率先して県立施設や県営住宅などの木造・木質化を進めるとともに、特別融資制度やモデル住宅を設けて県産木材を使った住宅の建設を促進。さらにPRイベントの開催や県産木材利用アドバイザーの設置により「暮らしの中に木材を取り入れる運動」を普及啓発していきます。

問い合わせは、県林務課 ☎078 (362) 3466へ。

## 3 防災基礎知識

### 治山ダムと土石流模型実験 ～土砂災害の発生に備える～

**梅** 雨時期の6～7月は、地盤が緩みやすくなり、土石流や山崩れなどの災害が発生しやすくなります。

土石流は、谷などにたい積した土石が、大雨により水とともに一気に流れ落ちる現象で、巨大なエネルギーを持つため下流の人家などに大きな被害をもたらすものです。

この土石流のメカニズムと防災施設の効果について理解を深めていただくために、(社)兵庫県治山林道協会が土石流の模型実験装置を作りました。

県では、この実験装置を利用し、各地のイベントで土石流の破壊力や治山ダムが被害を抑える効果を紹介しています。6月17日～29日には、神戸市中央区の「人と防災未来センター」で「六甲山の災害展」を開催し、模型実験を行いますので越してください。

ぜひ、この機会に防災意識を新たに、土砂災害に対する知識を身に付けてください。

問い合わせは、県治山課 ☎078 (362) 3471へ。